

入学年度	学部	学科	組	番号	検	フリガナ
						氏名

1 2つの微分可能な関数  $y = f(u)$  と  $u = g(x)$  の合成関数  $y = f(g(x))$  の導関数を  $y = f(u)$ ,  $u = g(x)$  の導関数で表したい。いま,

$x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $u$  の増分を  $\Delta u$ ,

$u$  の増分  $\Delta u$  に対する  $y$  の増分を  $\Delta y$

とすると,  $\frac{\Delta y}{\Delta x}$  は,  $\Delta u$  を間に挟んで

$$(*) \quad \frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\Delta y}{\Delta u} \cdot \frac{\Delta u}{\Delta x}$$

と書ける。ここで,  $\Delta x \rightarrow 0$  のとき  $\Delta u \rightarrow 0$  となるから,

$$\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta u \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta u} \cdot \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta u}{\Delta x} = \square \cdot \square$$

が成り立つ。これが, 合成関数の微分公式の一つの形である。

これを, ' を用いた記法で表すことを考えよう。合成関数  $f(g(x))$  の導関数  $(f(g(x)))'$  は

$$(f(g(x)))' = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(g(x + \Delta)) - f(g(x))}{\Delta x}$$

で定義される。ここで,  $x$  の増分  $\Delta x$  に対し,  $u$  の増分  $\Delta u$  は

$$\Delta u = g(x + \Delta x) - g(x)$$

と書ける。  $g(x) = u$  と書き換えて, これを変形すると

$$g(x + \Delta x) = u + \Delta u$$

となり, さらに

$$\Delta y = f(g(x + \Delta)) - f(g(x)) = f(u + \Delta u) - f(u)$$

と書くことができる。これらを用いて (\*) を書き直すと

$$\frac{f(g(x + \Delta)) - f(g(x))}{\Delta x} = \frac{f(u + \Delta u) - f(u)}{\Delta u} \cdot \frac{g(x + \Delta x) - g(x)}{\Delta x}$$

となる。ここで  $\Delta x \rightarrow 0$  とすると  $\Delta u \rightarrow 0$  だから,

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(g(x + \Delta)) - f(g(x))}{\Delta x} = \lim_{\Delta u \rightarrow 0} \frac{f(u + \Delta u) - f(u)}{\Delta u} \cdot \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{g(x + \Delta x) - g(x)}{\Delta x}$$

したがって,

$$(f(g(x)))' = f'(u) \cdot \square$$

ここで,  $u = g(x)$  を用いて  $f'(u)$  を  $x$  で表すと  $f'(u) = \square$  と書き直せる。こうして, 次の合成関数の微分公式が得られる。

$$(f(g(x)))' = \square$$

2  $(f(g(h(x))))'$  を求めよ。

3 関数  $f(x)$  の逆関数  $f^{-1}(x)$  の微分公式を導きたい。関数と逆関数は  $f(f^{-1}(x)) = x$  をみたくことに注目する。そこで,  $f^{-1}(x) = g(x)$  とおいて  $g'(x)$  を求めることを考える。

a)  $f(g(x)) = x$  の両辺を合成関数の微分法を用いて微分せよ。

b) 上で得られた式を  $g'(x)$  について解け。

c) 逆関数の導関数  $(f^{-1}(x))'$  を  $f(x)$ ,  $f'(x)$  を用いて表せ。

次の一連の問題の目的は、公式  $(x^a)' = ax^{a-1}$  が任意の有理数  $a$  について成り立つことを証明することである。 $n$  が整数の場合については前回すでに  $(x^n)' = nx^{n-1}$  が成り立つことを示してある。

4 【 $a = 1/n$  の場合】  $f(x) = x^n$  とすると、関数  $\sqrt[n]{x}$  は、関数  $f(x)$  の逆関数である。すなわち  $f^{-1}(x) = \sqrt[n]{x}$  である。

a) 問題 3 で得られた逆関数の微分公式を用いて  $(\sqrt[n]{x})' = \frac{1}{n(\sqrt[n]{x})^{n-1}}$  であることを示せ。

b) a) の結果を分数指数を用いて表すことにより  $(x^{\frac{1}{n}})'$  の微分公式を導け。

5 【 $a$  が有理数の場合】  $x^{\frac{m}{n}} = (x^m)^{\frac{1}{n}}$  であることを用い、合成関数の微分公式を用いて  $(x^{\frac{m}{n}})'$  の微分公式を導け。

6 次の関数を変数  $x$  で微分せよ。

a)  $f(x) = (1 - 2x^2)^3$   
 $f'(x) =$

b)  $f(x) = \frac{1}{(4x + 3)^2}$   
 $f'(x) =$

c)  $f(x) = \frac{1}{(x^2 + 1)^3}$   
 $f'(x) =$

d)  $f(x) = \left(x^2 - \frac{1}{x}\right)^3$   
 $f'(x) =$

e)  $f(x) = \frac{1}{x\sqrt{x}}$   
 $f'(x) =$

f)  $f(x) = \sqrt{16 - x^2}$   
 $f'(x) =$

g)  $f(x) = \sqrt[3]{x^2 - x + 1}$   
 $f'(x) =$

h)  $f(x) = \frac{1}{\sqrt{1 - x^2}}$   
 $f'(x) =$